

平成26年5月29日

第122号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL.027-210-1158

<http://www.rinyamaff.go.jp/kanto/>



森林環境保全整備事業（列状間伐）沼尻山国有林（福島県猪苗代町）

（撮影者：会津森林管理署 業務グループ）

公益的機能維持増進協定の締結及び森林共同施業団地の推進

（その1）

森林整備部 技術普及課

私と国有林

「森林ボランティア活動を通して感じる楽しさ、考えること」

森林ボランティアグループ「森と人の会」 代表 高橋 薫氏

「公益的機能維持増進協定の締結及び

森林共同施業団地の推進」(その1)

計画課・技術普及課

国有林野の管理経営については、平成25年度から一般会計で実施する事業に見直されたところであり、これまで以上に民有林との連携や支援が求められています。

このため、各森林管理署等においては、民有林関係者と公益的機能維持増進協定や森林共同施業団地の設定に向けた取り組みを行っており、その成果について報告します。

公益的機能維持増進協定

公益的機能維持増進協定制度は、平成24年6月に国有林野の有する公益的機能の維持増進を図るための国有林野の管理経営に関する法律等の一部を改正する等の法律(平成24年法律第42号)により森林法が改正されて制定された制度です。

国有林に隣接・介在する民有林の中には、小規模で孤立分散し立地条件が不利であり、森林所有者等による施業が十分に行われていない民有林があります。

この制度は、このような民有林と国有林とを一体的に森林整備を実施することにより、水源涵養や土砂流出の防備等の公益的機能をより発揮



協定調印式(浜松市)

される場合を「森林整備型」。また、外来樹種の繁茂が国有林で実施する駆除の効果に支障を生じさせる場合を「外来種駆除型」に区分し、森林管理局長が、民有林の森林所有者と協定を締結して、当該民有林を含め国有林と一体的に森林の整備及び保全を実施する制度です。

【静岡県浜松市における公益的機能維持増進協定の取組み】

平成25年度の協定締結は、天竜森林管理署において2月28日に三ヶ日



協定調印式(日光市)

町日比沢区自治会と「森林整備型」では、全国で初めてとなる「浜松市三ヶ日町日比沢地区公益的機能維持増進協定(間伐・国有林1360㎡、有林62㎡)」を締結しました。

【栃木県日光市における公益的機能維持増進協定の取組み】

つづいて前記同様の「森林整備型」として、日光森林管理署において3月14日に日光市と「日光市藤原地域公益的機能維持増進協定(間伐数量・国有林2760㎡、民有林283㎡)」を締結し平成26年度中に間伐等の森林整備を実施することとしています。協定締結にあたり日光市長からは、「地方にとつてありがたい政策。森林の公益的機能維持増進を図ることができる。」と期待の言葉をいただきました。



協定調印式(小笠原諸島)

【小笠原諸島における公益的機能維持増進協定の取組み】

「外来種駆除型」としては、4月21日に東京事務所において「小笠原諸島父島・夜明山地域公益的機能維持増進協定」を民有林の所有者と締結しました。

同協定の対象箇所である父島の夜明山地域は、リュウキュウマツ、キバンジロウなどの外来種と、ヒメツバキ、モクタチバナなどの在来種が混生していますが、今回の協定締結により、外来種駆除事業が国有林と民有林で一体的に実施されることとなり、より効果的な外来植物の駆除と固有の森林生態系の修復が促進されていくことが期待されます。

准フォレストスター研修修了者を対象とした フォローアップ研修の取組

森林整備部 技術普及課

関東森林管理局では、准フォレストスター研修修了者を対象に、准フォレストスターの更なる技術力の向上と准フォレストスター同士の横の連携を深める観点からフォローアップの取り組みを進めています。

2月27、28日の両日、研修修了者を対象としたフォローアップ現地検討会を、茨城森林管理署管内の国有林において実施しました。参加者は、国有林職員10名、管内の関係県から11名（福島県2名、新潟県1名、茨城県5名、千葉県2名、神奈川県1名）計21名が参加しました。

また、講師として、宇都宮大学名誉教授の谷本丈夫氏、独立行政法人森林総合研究所の育成林施業担当チーム長の宇都木玄氏を迎え、講義をいただきました。

初日の27日は、茨城森林管理署会議室において「コンテナ苗を活用した一貫作業システムの実証試験」の実施経緯・結果等について、森林技術・支援センター所長から説明があり、その後、一貫作業システム実証試験実施箇所（東茨城郡城里町錫高野 梅香沢国有林）に移動し、伐採

から集材、造材、運材、植付についての作業方法や工程、コンテナ苗植付け後の苗木の状況等について意見交換を行いました。

翌28日は、筑波山国有林内に設定している複層林施業試験地に移動し、複層林のモデル林において施業の考え方・進め方についての説明があり意見交換を行いました。

講師からは、「各地にある試験地・展示林等先達が実施してきた施業地から、施業方法やその結果について学ぶことが重要であり、自分が担当する現場においては、現場をよく見て『木材生産を目的とした山づくりを目指すのか、環境保全を目的とした山づくりを目指すのか』等、将来を見据えた山づくりを検討し、フォレストスターとして活躍いただきたい」との激励がありました。

その後、茨城森林管理署に戻り、「フォレストスターとしての心構え」についての講義と、意見交換を行いました。

参加者アンケート結果には、「活用が期待されているコンテナ苗の植栽箇所や、景観に配慮した複層林施

業の現地において意見交換ができたことは勉強になった、今後も継続実施して欲しい」との要望が多くあったことから、開催時期を考慮するなど、要望点を生かしつつ、技術力向上を目指し、今後もフォローアップ研修に取り組んでまいります。



フォローアップ研修の参加者

今月の表紙 「森林環境保全整備事業 （列状間伐）」

平成25年度に、福島県猪苗代町の沼尻山国有林で実行された森林環境保全整備事業です。

写真の場所は、樹齢54年生のカラマツ人工林で、列状間伐による保育及び木材生産を行いました。

チェーンソーによる伐倒、プロセスサによる造材、フォワーダによる運材を経て土場に集められた丸太は、トラックにより木材市場やチップ工場へと運ばれます。

当該事業では、他の事業地も含めて190鈐の森林を整備し、5600³mの木材を供給しました。



「ふくしまの森 復興大会」に参加

技術普及課

3月22日、福島県南相馬市において、海から里、森林へとつながるふくしまの森づくりをテーマに「ふくしまの森復興大会」(主催／ふくしまの森・復興大会実行委員会 後援／復興庁・林野庁・福島県外14団体)が開催されました。

関東森林管理局からは、須藤局長をはじめ福島県内を管轄とする森林管理署長等職員計21名が参加しました。

午前中は、津波により甚大な被害を受けた市内鹿島地区において、参加者354名が集い、林野庁長官も出席する中、震災の犠牲とられた方々への黙祷を行った後クロマツのコンテナ苗を記念植樹しました。

午後からは、会場を市内文化会館に移し、参加者400名が集い復興大会式典が行われました。

始めに、太田猛彦東京大学名誉教授から「ふくしまの森の再生と新しい森づくり」と題した特別講演があり、海岸林再生に当たって考慮すべき事項や再生に向けてのプロセス等について説明が行われました。

続いて、根本復興大臣も出席され



復興大会式典の様子



記念植樹を行う須藤局長

中、地元で復興に係わる方々から復興に向けた意見発表が行われ、結びに南相馬市立原町第一中学校の生徒が読み上げた「ふくしまの森」復興を目指す大会宣言が満場一致で採択され、式典を終了しました。

関東森林管理局としても福島県の復興に向け引き続き尽力してまいります。

森林は友達

作文コンクール

東京事務所

3月14日都内のホテルにおいて「第17回森林は友達！作文コンクール」の表彰式が行われました。

この作文コンクールは、旧東京分局管内(茨城県から静岡県までの1都6県)の森林管理署、森林管理事務所、高尾森林ふれあい推進センター等が行った「森林教室・体験林業」に参加した小学4～6年生を対象に、感じたことを作文にすることによって、森林・林業に対する理解や関心をより一層深めてもらうことを目的に、森林作文コンクール実行委員会(一般社団法人東京林業土木協会と関東森林管理局東京事務所で構成)が毎年度行っているものです。

今回は、19の小学校と2団体から過去最多の1796名の参加がありました。

最優秀賞の林野庁長官賞には、「木とつながっている」と題して、高尾の森林教室で木とふれあう体験を通して、木と心が通じ合ったことを実感し、「人と木はつながっている」と自分の学びの言葉を豊かな感性で表現した八王子市立みなみ野小学校5年生の畑中乃佳さんの作品

が受賞しました。

この作文コンクールは、次代を担う子供たちに森林・林業がいかに重要なものであるかを考える場として続けていくこととしています。



最優秀賞(林野庁長官賞)授与



表彰式参加者記念写真

2014 敷島公園

まつり

技術普及課

関東森林管理局では、昭和51年から毎年春に、森林・林業や国有林野事業をPRする「グリーンフェア」を実施してきました。今年は4月29日、県立敷島公園で行われる「敷島公園まつり」の会場内に設けられたグリーンゾーンにおいて、関東森林管理局ブースとして参加し、(公社)群馬県緑化推進委員会、(一財)日本森林林業振興会前橋支部、日本野鳥の会群馬、NPO法人ぐんま緑のインタープリター協会とともに、「みどり」を守り・育て・活かすことの大切さを発信しました。

この日、敷島公園には約2万6千人もの方々が来場し、関東森林管理局のブースにも来場者が途切れることなく訪れ、大いに賑わいました。当日は、技術普及課と赤谷森林ふれあい推進センターが協力して、「木のしおり」作りや「ロケット・リーフ」作りの体験と、赤谷プロジェクトの取組を紹介するパネルなどの展示を行いました。

しおり作りでは、子供たちだけでなく親子でも参加して、ヒノキや色

紙の台紙にモミジなどの押葉を自由に貼り付けたり、カラーペンで模様を書き込んだりして、オリジナルのしおり作りに夢中で取り組む様子が見られました。中には、台紙には収まりきらないような大きなモミジを大胆にカットして貼り付けたり、親子が自分たちで摘んできたタンポポを加えたりするなど、様々なデザインのしおりが作られていました。

空飛ぶタネの模型「ロケット・リーフ」作りでは、子供たちが、職員の実演に歓声を上げながら、自分たちで作ったロケット・リーフをその場で飛ばして楽しめました。輪ゴム1本で予想外に高く飛び上がり、くる



関東森林管理局のブース



木のしおりづくり

くる回りながら舞い降りてくる様子に、大人の方々からも驚きの声が上がっていました。また、ロケット・リーフについて、「何の木で作られていますか？」という質問があり、「スギの間伐材です」と答えて、間伐のPRにも一役買っていました。

このほか、グリーンゾーンでは、(公社)群馬県緑化推進委員会、群馬県、前橋市、(一財)群馬県森林・緑整備基金、関東森林管理局が連携し、「緑の募金推進中央キャンペーン」として苗木配布会を開催し、オリーブ、ハナカイドウ、アンズ、ブルーベリーの苗木を配布して、広く緑化の普及を図るとともに、緑の募金へのご協力をいただきました。



飛ばしてみよう！ロケットリーフづくり



今年も大盛況の苗木配布会（局長）

私と国有林

森林ボランティア活動を通して感じる楽しさ、考えること

森林ボランティアグループ「森と人の会」代表 高橋 薫



森林ボランティア活動を始めて約16年になります。活動を通して感じる楽しさ、考えていること等について述べさせていただきます。

【森と人の会紹介】（ホームページ…「森と人の会」クリック）

「発足」平成11年、奥多摩都民の森「平成10年度・通年林業体験講座」受講者の集まりとしてスタート。

【正会員】31名。

「今までに活動したフィールド」東京都奥多摩町、群馬県吾妻郡川場村、千葉県一宮町、新潟県魚沼市他。

「現在の活動フィールド」埼玉県ときがわ町三境国有林、東京都あきる野市民有林、群馬県大柄県有林。安全第一を心がけ、月例会および年数回2泊3日程度の遠出にて楽しく有意義に活動しています。

【国有林での活動】

高尾山大平国有林（平成14年〜20



三境国有林選木調査に同行



間伐で明るくなった林を背景に



新人が初めての間伐作業実施



町田屋旅館の90歳の美人女将と

年）、ときがわ町三境国有林（平成20年〜）にて活動。主な作業は、スギ、ヒノキ林の間伐、ボサ刈り等。

【森林管理事務所から支援いただく】

管理事務所の方々から技術指導、また機材等の貸し出しをしていただいています。

技術の向上は安全面で大切なだけでなく、その修得はとても楽しいものです。この指導をいただけるというのはとてもありがたいことです。また先日は、選木調査に同行させていただき、施業技術についても教えていただきました。

ノコ、ナタ等は自前ですが、大型

のハシゴ等は購入費用、運搬等でボランティアグループには負担が大きくなります。それらを貸し出していただくこともあります。

【山仕事、気持ちいいなあ】

間伐、ボサ刈り等により暗い林が明るくなり、地面にも陽が射してきます。木に腰掛け一休み、小鳥のさえずり、川のせせらぎ、涼しい風、そして百年後の姿を考える。とつても気持ちよく、豊かな気分になります。

明るく見通しのよくなった林。成果がはつきり見えるということ、普段の仕事ではなかなか実感できないことです。

【現地の暮らし、文化に触れる】

現地の暮らし、文化に触れることを心がけています。というよりそれが楽しみになっています。

三境国有林の帰りには、ときがわ

町営「建具会館」によります。お土産を買い、喫茶コーナーで歓談。店員さんから、建具生産の衰退によるときがわ町の人口減少についてお話しをうかがったりもしました。

現地の旅館に宿泊。作業後の温泉、お酒と食事。御年90歳の美人女将との語らい等々。

【活動を通して考えること】

森林ボランティアが行う作業量は微々たるものです。そんな活動に、そして国有林で行うことに、どんな意義があるのか。

目の前の林を見ながら、日本の林業、森林、そして世界の環境について思いをはせることもあります。

「地球規模で考え、足元から行動せよ」という言葉が好きです。周囲の人にそんな思いを話してみる、そんなことを考えながらこれからも活動していきたいと思います。

管内のいちおしスポット



おぐにぬま
雄国沼

■ 会津森林管理署 <http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/aizu/index.html>
〒965-8550 福島県会津若松市追手町5-22
TEL:0242-27-3270(代表) FAX:0242-27-3272

雄国沼は、福島県北西部の北塩原村（裏磐梯）にあるカルデラ湖で、標高1089mの高地に位置し、猫魔ヶ岳や雄国山などの外輪山に囲まれ、さらに沼とその周囲に広がる湿原には、貴重な湿原植物の群落が見られ、美しい景観とともに多くの人達に親しまれています。

「雄国沼」はこのような地形上、小じんまりとした美しい別天地を意味する「小国」の名がつけられ、これが「雄国」に転じたものと言われています。

雄国沼湿原には、5月のミズバショウから始まり、6月にワタスゲやコバイケソウ、7月になるとニッコウキスゲが湿原全体を山吹色に彩ります。また、高山植物を含むさまざまな植物も見ることができ、この湿原だけで280種もの湿原植物が確認されています。

全国的にも貴重なこの雄国沼は、湿原植生の保護のため「植物群落保護林」に指定しており、また、昭和32年に湿原の植物群落は「我が国にとって学術上価値が高いもの」として認められ、国の天然記念物にも指定されています。

なお、地元ではニッコウキスゲ等の開花時期にはマイカーによる利用者が集中することから、植物への悪影響等を懸念し、平成17年度からマイカーを規制し、シャトルバス運行による保護対策が行われています。

この雄国沼周辺には、裏磐梯、蔵の街「喜多方」、温泉地などの観光施設もありますので、ご家族連れで一度は訪れてみてはいかがでしょうか。

（会津森林管理署
広報広聴連絡官
森田隆浩）



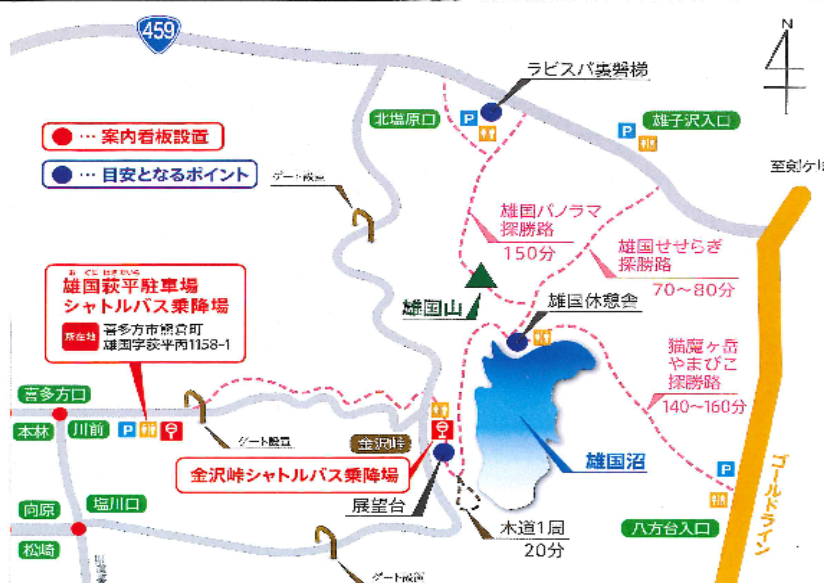
雄国沼・湿原周辺風景



雄国沼ニッコウキスゲ散策風景

編集所
FAX (027) 230-1393
TEL (027) 230-1395
総務課

発行所
関東森林管理局



雄国沼経路図(喜多方市提供)